

## 富士火山東斜面で新たに確認された平安時代の割れ目火口群

### New evidences of historical fissure eruptions in the Heian Period on the eastern flank of Fuji volcano, Japan

山元 孝広<sup>1\*</sup>, 中野 俊<sup>1</sup>, 高田 亮<sup>1</sup>, 小林淳<sup>2</sup>

Takahiro Yamamoto<sup>1\*</sup>, Shun Nakano<sup>1</sup>, Akira Takada<sup>1</sup>, Makoto Kobayashi<sup>2</sup>

<sup>1</sup>産総研地質情報研究部門, <sup>2</sup>株式会社ダイヤコンサルタント

<sup>1</sup>Geological Survey of Japan, AIST, <sup>2</sup>DIA Consultants

富士山の須走-御殿場登山道間の東斜面に分布する噴出物の層序を見直した結果, 同域の噴出物の多くが, 従来の見解とは異なり, 過去2000年間に噴出したものであることが明らかになった。しかも, この中には明らかに東山腹から平安時代に噴出したものが少なくとも3つ含まれている。

#### 1. 東山腹からの噴出物

東斜面ではニッ塚スコリア(FTT: 2050±40yBP)と宝永噴出物の間に, 東山腹から噴出した7枚のスコリア層(下位から須走馬返1?7スコリア: SU1?7 [新称])と4枚の溶岩流(下位から幻の滝・海苔川・須走1・須走2溶岩流 [新称])が位置している。海苔川溶岩流はSU4の下位, 須走1溶岩流はSU5の下位, 須走2溶岩流は, SU6の上位でSU7とほぼ同層準にある。須走1・2溶岩流は極めて岩質が類似しており, 津屋の地質図では須走溶岩流と一括されていたが, SU5・6を挟んで2枚あることが明らかになった。これまでにSU1から1850±40yBP, SU5から1130±40yBP (AD790-1000), 須走2溶岩流から1030±40yBP (AD960-1040)と1000±40yBP (AD980-1060)の年代値を得ているが, 今回新たにSU5とSU6間に神津島天上山テフラ(AD838)の降下層準が位置することを確認した。すなわち, SU5は平安時代初期に, SU6・須走2溶岩流は平安時代中期に噴出したことが確実である。須走2溶岩流の噴火位置は, 本五合よりも上の須走登山道沿いで, 標高3300m付近まで追跡できる。SU6の噴火口は須走のブル道沿いで標高2600mから下方にスパッター丘が確認できる。SU5の噴火位置は標高2100mよりも上の須走登山道沿いであるが, そのほとんどは須走2溶岩流に覆われ, 僅かにスパッター丘が露出するのみである。しかし, SU5自体は標高2700mまで追跡できるので, さらに上方にまで噴火口が延びていたことは確実である。海苔川溶岩流は東山腹標高2950mから, 幻の滝溶岩流は同山腹標高3100m付近から流出している。

#### 2. 南東山腹からの噴出物

御殿場登山道東脇の標高3300?3600mのスパッター丘から流出した溶岩流は東富士演習場内の標高770mまで流下している(津屋の御殿場溶岩流であるが, 岩屑なだれとの名称重複を避け雄鹿溶岩流と改名)。この溶岩流はFTTとSU1の間に位置し, 2050?1850yBPに噴出している。また, 東斜面でSU2-3間にあるスコリア層は南西に向かって層厚・粒径が増し, ニッ塚・赤塚の直ぐ西にあるスパッター丘群に収斂する。このスコリア層は赤塚スコリアの直ぐ上位にあり, 赤塚西スコリアと新称する。

キーワード:富士火山,歴史噴火

Keywords: Fuji volcano, historical eruption